

授業科目名 <英訳>		医療社会学・基礎 Medical Sociology			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 岩隈 美穂				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2016・ 前期集中	曜時限	前期後半 火5限	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<p>コースの概要 医療社会学とは「健康・病気と保健・医療に関わる世界の問題を、行動や生活、家族や集団、地域や社会、文化などに関する社会学の理論と方法を用いて解明する学問分野」崎喜比古（編）、2001、「健康と医療の社会学」まえがき より） このクラスの射程として、社会学はもちろんだが人類学、コミュニケーション学、歴史、哲学、倫理学なども含む予定で、「人文学・社会科学」から医学を考える。</p>											
[到達目標]											
<p>学習到達目標（このコース終了時まで習得が期待できること） 医療社会学とは何か、を説明できる。 医療社会学の概念、理論、方法論を理解する。 自分の興味のある研究テーマにひきつけて医療社会学を考えることができる。 「人文学・社会科学」からの医療・医学への視点や語彙を提供し、履修者たちの描く「理想の医療」への改革へのヒントにすることができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1 6/7イントロダクション 2 6/14医療社会学の基礎 3 6/21ジェロントロジー（同志社大学 関根千佳氏） 4 6/28癒しの社会学（飛騨千光寺 大下大圓氏） 5 7/5スピリチュアルケアと社会学（京都大学 佐藤泰子氏） 6 7/12人文・社会科学的医学とは 7 7/19講義まとめ</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>出席 25% 授業参加度 25% レポート 50% タイトル 15% + 最終版 35%</p>											
----- 医療社会学・基礎(2)へ続く ↓↓↓											

社会健康医学課外実習(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- ・終了後速やかに報告書・レポート（報告書の様式は教務掛を通じて入手すること）を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。
- ・合否のみ、判定する。

[教科書]

- ・ 諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。

[参考書等]

(参考書)

- ・ 諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。

[授業外学習（予習・復習）等]

適宜予習復習を求める

(その他（オフィスアワー等）)

その他メッセージ

- ・ 他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。
- ・ 履修登録（単位取得）せずに、インターンシップを行ってもかまいません。
- ・ 実質的な業務が計60時間以上で2単位。 計30時間以上で1単位とします。
- ・ 上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員（指導教員等）が評価し、合否と単位数（1単位か2単位）を判定します。
- ・ 報告書の様式（教務掛で受取ること）を主担当教員（指導教員等）に提出し、履修届けを同時に行ってください。

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。